同友会ニュース　第111号

2007年１月　発行

緑陽

財団法人同友会 藤沢湘南台病院
藤沢訪問看護ステーション
介護老人保健施設藤沢ケアセンター
在宅介護支援センター
藤沢湘南台病院居宅介護支援センター
健康増進施設 ライフ メディカルフィットネス
発行者　財団法人　同友会
〒252-0802　藤沢市高倉２３４５
ＴＥＬ　０４６６－４４－１４５１
URL：http://www.fj-shonandai.jp/
E-mail:shounandai@mvg.biglobe.ne.jp

あけまして おめでとうございます

財団法人同友会理事長
院　長　鈴木　紳一郎

地域の皆様におかれましてはよいお正月をお迎えになりましたでしょうか？

昨年、国は療養型病床を38万床から15万床に削減させることを決定し、その準備段階として療養型病床の中に医療区分を設定したため在宅中心（実際はこの核家族の中、在宅は厳しい）を強いられ、高齢者がなかなか療養病棟に入院できないようになってきています。また障害者自立支援法が施行されましたが、実際は逆に負担が多くなりサービスが受けられない、またリハビリテーションに一方的な期限を設けたため途中で治療を断念せざるを得ない方も出て、〝どうなっているの？日本の医療政策！〟と感じています。

当院でも足りていると国がいう（実際は5万人ぐらい足りない）看護師不足が露呈し、救急の整備を早急に進めたかったにもかかわらず、看護師集めと内部改革に明け暮れ、ここ十数年の中で一番厳しい一年間でした。地方では全般的に医師臨床研修制度により医師不足が、特に特定の科が（小児科、産科、外科など）足らず藤沢市でもお産の出来る施設がたった5施設（うち開業医4施設のみ）、鎌倉市でも開業医が皆無になっています。医師臨床研修制度が始まれば小児科、産婦人科を必須で研修することにより、その科が増えると読んだ国の政策はまったく逆になって、子供は海外で産み、海外で育てるのかといった声さえ聞こえてきます。一方、都市部では看護師が大学、大病院などに集中し看護師不足が深刻化、訪問看護ステーションなども成り立たなくなったりしています。どうしてこんなに現場とかけ離れた机上の政策がなされてしまうのでしょうか？医療費抑制ばかりが叫ばれていますが、人生一番大切なのは〝健康〟で、そのための費用が最優先じゃないのか？と国の将来を案じてしまいます。今の医療の問題点を打開できないと安心して暮らせない日本になってしまいます。

さてそんな中で当法人は今年①看護師対策を含めた内部改革の推進②救急のシステムの構築　③専門性を明確に、また利用しやすい施設のシステム化などを考えています。

①は看護師が看護の心をしっかり持って、いい看護ができてこそいい医療を提供できます。そのためには医師の協力はもちろんですが、各職種が看護師を支え、協力しあう内部改革を推進していくことが大切になります。しかし、国の政策ミスにより急性期を全うしていきたい看護師は減少し、看護職に就いていない有資格者の方もたくさんいます。我々としては、いち早く看護師の卒後研修制度、看護再教育制度を築き、いろいろな看護師のライフスタイルを提示していきたいと思っています。お近くの方に看護師の資格をお持ちの方がいましたらぜひご紹介ください。

②は昨年12月より藤沢市民病院に救急救命センターが設立されました。藤沢の救急医療体制の再構築が今年より本格的に始まります。そんな中で当院に求められているのは、24時間輪番病院です。1次としての休日夜間診療所。2次としての輪番病院（当番日のみ体制を強化している病院）、そして当院では、救急救命センターをサポートしつつ毎日2次救急を担当する24時間３６５日輪番病院であります。そのためには当院に2次救急用に空床を確保し2次としての救急患者様、市民病院からの救急の逆受け入れができるようにしなければならず、これから医師、看護師を中心によく話し合っていきたいと思います。

③は当院では何が得意なのか、何が出来ないのかの守備範囲を明確にするため外科、内科などの名称ではなく大腸肛門病ＩＢＤセンター、消化器内視鏡・鏡視下治療センター、健康スポーツセンター、背椎外科センター、呼吸器外科センター、救急センターなどに分け患者様にも分かりやすくしていきたいと思います。また患者様にも利用しやすい施設にするため入退院、および外来などの受け入れ窓口を充実していきたいと思います。

まだいろいろと課題がございますが地域の皆様におかれましてはぜひ今年もどうぞご支援、ご指導の程お願い申し上げます。

AED（自動体外式除細動器）

呼吸器外科部長　熊切　　寛

昨年の６月１日の朝のことでした。混雑する愛知万博のトヨタグループ館の待ち列で41歳の男性が突然倒れ、意識がなくなり呼吸も心臓も止まりました。周囲は大騒ぎになりましたが、その時近くにいたお客さんによってAED（自動体外式除細動器）による蘇生が行われ呼吸と心臓の動きが戻りその男性は命を救われました。この事は新聞紙上でも大きく報道されましたからご存知の方も多いと思います。愛知万博には100台のAEDが導入され期間中になんと４人の方がAEDにより救命されました・・・

日本における病院外での心停止の発生件数は、年間２万～３万件と推測されます。この数字は、交通事故による死者数の３～４倍にのぼります。突然死の死因のほとんどは心室細動という不整脈です。心室細動は心臓のけいれんのことで、心室細動になると心臓は機能しなくなります。助かるチャンスは１分経過するごとに約10％ずつ失われ10分後にはほとんどの人が死に到ります。この心室細動を正常な状態に戻す唯一の方法が除細動(心臓への電気ショック）です。

AED（自動体外式除細動器）は、心臓に電気ショックを与えることにより心室細動を正常な状態に戻す器械です。AEDを自宅、学校、職場、たくさんの人が集まる公共の施設など様々な場所に置き、早期に使用することで突然死を防ぐことができるのです。AEDは除細動が必要かを判断し救命の手順を音声で指示する器械で誰もが使えます。日本では平成16年７月から一般市民による使用が認められました。そうです、あなたにも使えるのです。

同友会の施設の中にも医師や看護師の手がすぐに届きにくい所があります。駐車場や待合いホール、ライフやリハビリテーション室、藤沢ケアセンターなどです。こういった場所に一般の人でも使用できるAED（自動体外式除細動器）が必要と考えこのたび設置することになりました。AEDの操作は驚くほど簡単です。音声で次にどうしたら良いかをすべて教えてくれますから、あなたがすることは電源を入れること、通電パッド（粘着シール状の電極）を貼ること、誰も触っていないかを確認して通電ボタンを押すだけです。操作に高度な専門知識を全く必要としません。小学生でも使えます。

もし倒れている人を見つけたら、まず大声で人を呼びAEDを持ってきてもらって、迷うことなくすぐに使ってください。そうすることによって命は救われるのです。

常務理事就任のご挨拶

財団法人同友会 常務理事　園部　　公

平成18年10月１日から、財団法人同友会の常務理事に就任いたしました園部　公です。

私は昭和41年５月に、当時まだ「神奈川高座病院」という名前であった当院に入職し、以来主として建物管理、物品調達等の業務に当って参りました。常務理事就任に当り、当法人の掲げている４つの目標を達成するため、新たな気持ちで邁進していきたいと思っております。

さて振返って見ますと、私は昭和49年には２号館、平成６年には藤沢ケアセンター、そして平成12年には１号館（新館）という、当法人の大きな建設プロジェクトを施設担当として経験してきました。そして現在、急性期病棟・回復期リハビリ病棟・慢性期療養病棟・介護老人保健施設・訪問看護・居宅介護支援・健康増進という一連の施設が、一つの敷地の中にできあがっています。

本年は、設立者鈴木文蔵が一面の桑畑が広がるこの地に“鈴木病院”として病院を開業して75年目を迎えます。医療機関が整わず、病苦にあえぐ地元の状況を憂いて病院の設立を決意した創業の心意気を忘れずに、すべての施設が連携して地域の方に安心をご提供していきたいと考えております。

当院は藤沢市北部に位置しておりますが、藤沢市民のみならず、隣接する横浜市西北部・大和市・綾瀬市等にお住まいの方々にもご利用いただいております。病気の予防から、いろいろな病態への対応、退院後の介護に至るまで、地域の方々に医療・介護の面で、信頼と安らぎのあるサービスをご提供し、ご満足いただけるよう努力して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

ノロウィルス大流行！？

内科部長　高橋　大介

ちょっと聞きなれない名前のウィルスが近頃新聞をにぎわせていますね。このウィルスは毎年10月ころから冬にかけて食中毒と人から人への感染で広がり流行を示します。以前はいくつかの呼び名がありましたが2002年にこの名前に統一されたため耳慣れない感じがするかもしれませんが、特別に新しく出現したものではありません。

カキなどの貝類で食中毒を起こす事がありますし、下痢や吐物からの接触感染で人から人へも感染します。発熱、腹痛、嘔吐、下痢などの臨床症状があり、多くは軽症で自然に治癒しますが乳児や高齢者などで免疫力が低下していると重症化することもあります。感染者の排泄物から下水に入り、汚水処理場での処理も通り抜けて河川に排出され、海にいるカキなどの貝類に蓄積されるそうです。

今シーズンは早めに流行し始めており、関西、九州などから始まりました。12月の始めには関東でもホテルや飲食店、病院、老人保健施設などで集団食中毒が発生しており、注意が必要です。

予防は手洗いの励行、患者さんの下痢や吐物などにはウィルスがいるためビニールの手袋を使うなど、処理に注意しましょう。また貝類などはなるべく加熱処理して食べるようにし、貝類を扱った包丁やまな板などはよく洗浄し、85℃で１分以上での過熱処理や、塩素系漂白剤（ハイター等）で処理するなどして他の食品を汚染しないようにする注意が必要です。

治療には特効薬はありません、整腸剤や下熱剤などの対処療法と脱水の予防のための点滴などとなります。普段から体調を整えかかっても重症化しないようにすることと手洗いをきちんと行なうようにして予防に努めましょう。

ライフメディカルフィットネス

今年こそ、楽しく運動始めよう！ ～分かっちゃいるけど、始められない～

最近、テレビの「健康情報番組」などの影響もあり健康に関する関心は高まってきています。昨年の流行語大賞でも「メタボリックシンドローム」という言葉がトップ10に入ったのも記憶に新しいでしょう。ある世論調査によると66%の人が「運動不足」を感じています。しかし実際に「健康教室、スポーツクラブ」などで運動している人は18%というデータがあります。どうやら「分かっちゃいるけど、始められない」というのが現状なのでしょうか。

【健康づくりはもともと続かない？】

どのような行動でもそうですが、何年も継続し続けることは並大抵のことではありません。「やる」か「やらない」の２者択一の考えを捨て何もやらないよりはわずかなことでもやった方がましという考えから始めてみましょう。

【運動を続けるためのヒント】

ちょっとしたきっかけからウォーキングが毎日の生活に習慣化され、生活の一部となれば良いですね。例えば、「いつも使っているバス停より１つ先の駅まで歩いて通勤」「買い物に行く時は自転車で」など普段の生活で日課となっていることは習慣化されやすく無理なく運動を続ける近道になるのでは？自分自身の生活の中で、ちょっとしたきっかけを探してみてください。

運動は継続して行うことで、体力の維持・向上がみられます。しかし、１度辞めてしまうと維持どころか、低下していくばかりです。**自分のペースで無理せず、コツコツ続けて行くことが何より大切なのです。**

まずは自分の出来る運動からはじめてみてはいかがでしょうか？「膝や腰が痛い方 」「血圧が高めの方」でも安全で効果的な運動を私達ライフスタッフがお手伝いしています。皆様、是非一度ライフメディカルフィットネスに足を運んでみてください。

外来診療予定表

平成19年１月現在

科目			月	火	水	木	金	土
内科	午前	消化器科	山本 所	藤田 古出	高橋	藤田	所 古出	高橋 山本
		循環器科	西尾 井上	中丸 後藤	武居 石川	石川 住田	中丸	武居 西尾
	午後	消化器科	古出	山本 所	川名	高橋	藤田 松田	●
		循環器科	武居	石上 (第2週のみ) 鶴見 (第2週以外)	西尾	中丸	武居	●
外科	午前	一般外科	田村副院長 五代	深野 熊切	田村副院長	鈴木院長 深野 五代	原田	鈴木院長 田村副院長
		大腸肛門科	五代	深野	●	鈴木院長 五代	●	鈴木院長
		がん相談 食道疾患外来	●	●	●	小泉名誉院長 第3週は休診	●	●
		甲状腺外来	●	●	●	●	佐々木	●
形成外科	午後		●	●	●	●	西田	●
泌尿器科	午前		諏訪	諏訪	小宮	諏訪	小宮	諏訪 又は小宮
眼科	午前		仙田	日比	堀 磯部	日比 磯部	仙田	堀 磯部
	午後		堀	日比	堀 磯部	磯部	仙田	●

科目		月	火	水	木	金	土
皮膚科	午前	大岡	神成	菅	藤田	村上	●
	午後	大岡	神成	菅 (予約のみ)	藤田	村上	●
脳神経外科	午前	●	●	吉田	●	●	●
	午後	吉田	数野	●	吉田	市川	●
ペインクリニック	午前	山川	新井	●	●	山川	鈴木
整形外科	午前	斉藤副院長 高尾 大沢	河合 小柳	斉藤副院長 大山 河合	大沢 大山	棚橋 小柳	斉藤副院長 担当医
健康スポーツ部 ＊初予約診も制	午前	●	福田	高尾	●	福田	●
	午後	高尾	斉藤副院長 高尾 福田	斉藤副院長 高尾	●	福田	●

※□ 枠の診療は予約制とさせていただきます。
●は休診とさせていただきます。

※内科・外科・泌尿器科・整形外科の午後外来診察は完全予約制です。「一般診察（新患・予約外）」の他、「お薬」・「注射」等も受付できませんのでご注意ください。

受付時間

■月曜日～金曜日　午前　8:30～11:00（診療開始 9:00）
　　午後 12:00～ 3:00（診療開始 1:30）
■土曜日　午前　8:30～12:00（診療開始 9:00）
＊土曜日午後・日曜・祭日・年末年始【12月30日（土）～１月３日（水）】は休診です。

同友会ニュース